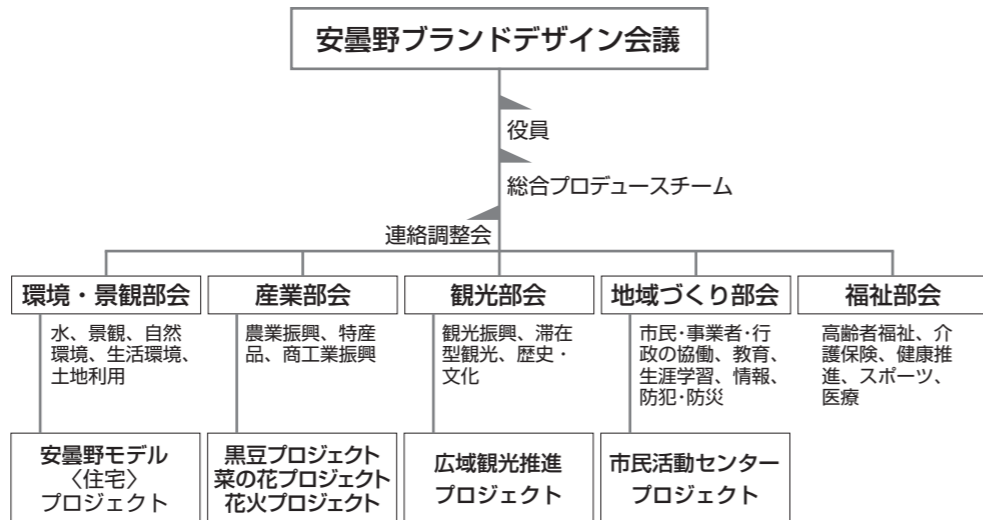




講演会で白戸教授は、「ブランドの構築とは、新しく創る物でなく掘り出して磨くもの。そこに暮らす人々が幸せに生活すること。住民一人ひとりからわき出てくるものを行うにつなげていくもの」と説明しました。



安曇野モデル〈住宅〉プロジェクト

市民参加型のまちづくりモデル構築による安曇野ブランド化を目指します。安曇野モデルのまちなみと住宅を市民の皆さんとのコミュニケーションにより完成させます。地球環境に配慮し、また安曇野の風土に調和したまちなみ整備と住宅づくりの提案をします。



当日は約120人の皆さんが来場し、メモを取るなど熱心に耳を傾けていました。

黒豆プロジェクト

安曇野産黒大豆(信濃黒)を全市的に広め、黒豆を使った商品開発、また販路拡大を図り、安曇野産黒大豆のブランド化を目指します。プロジェクトを、「生産・流通グループ」(生産拡大、品種改良、流通確立など)および「商品開発グループ」(商品開発拡大、ロゴ・シール作成など)に分けました。また「ブランディングチーム」を設けて、黒豆のブランド化に向けた検討をしています。

菜の花プロジェクト

休耕田利用、景観形成、栽培者の健康や生きがいづくり、菜種の搾油、廃油で車を走らせるなどを目的として活動している市内の団体や個人のネットワーク化を図り、全市的な菜の花栽培拡大に努め、循環型社会の構築を目指します。2月に開催した「あづみ野環境フェア2008」では、搾油のデモを行いました。また、本年5月17日、18日に大町市で開催される「全国菜の花サミット」にも参加します。

具体的なプロジェクトが進行中

広域観光推進プロジェクト

来年開催される穂高神社最大の祭典である「大御遷宮祭」を契機として、広域的な滞在型観光の確立を図ります。そのため、観光に携わる多くの皆さんとの連携を図りながら、安曇野観光モデルを検討しています。

市民活動センタープロジェクト

市が来年度設置する市民活動センター(仮称)の意義を確認し、センターのあり方と運営管理についての方針、センターの名称、また実際に運営をしていく組織の設置について検討します。オープンと同時にプロジェクトは解散しますが、その後新たに設置する運営委員会に引き継がれます。

各分野でブランドづくり

安曇野ブランドデザイン会議(黒岩千展会長)は、5つの部会(環境・景観、産業、観光、地域づくり、福祉)を設け、各部会は、それぞれの分野で「安曇野ブランド」を構築するため、8月以降7回程度の会議を開いてきました。また、部会からはいくつかの具体的なプロジェクトも立ち上がりました。この日は、部会とプロジェクトの進捗よく状況を報告しました。また、報告会の後、松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科の白戸洋教授による「あな



3/1

安曇野ブランド5つの部会が報告

安曇野ブランドデザイン会議中間報告会

昨年8月に発足した「安曇野ブランドデザイン会議」は3月1日、その進捗よく状況を市民の皆さんにお伝えするため、豊科ふれあいホールで中間報告会を開催しました。

会場には約120人の皆さんが来場し熱心に耳を傾けていました。

た発のブランドを考えよう」と題した講演会を開催しました。中間報告の概要は、次のとおりです。

■環境・景観部会

部会を2つに分けました。「自然グループ」では、安曇野の観光情報をインターネットにより発信、安曇野の景観を守るためには農業が大切、地球環境保全のための太陽光利用の提案などについて話し合っています。「生活グループ」では、「安曇野モデル〈住宅〉プロジェクト」を立ち上げました。

■産業部会

3つのプロジェクトの立ち上げについて確認し、この内「黒豆プロジェクト」と「菜の花プロジェクト」が立ち上がり、作業を進めています。産業は商業、工業、農業と範囲が広いので、各分野に関連する「安曇野の水」をテーマに研究を進め、来年度は、「水と食」をテーマにしたイベントを開催します。

■観光部会

来年穂高神社で開催される「大御遷宮祭」を契機とした新たな広域的観光戦略を検討するため「広域観光推進プロジェクト」を

立ち上げました。部会では、安曇野の観光の現状と課題を分析し、今後の安曇野の観光ビジョンを探るため、ワークショップを行いました。この結果を基に今後の観光戦略を検討、推進していきます。

■地域づくり部会

安曇野ブランドのキーワードとして「情報」を取り上げ、市が来年度設置する「市民活動センター(仮称)」の管理運営などについて提案するため、「市民活動センタープロジェクト」を立ち上げました。また、「既存商店街活性化」および「拾ヶ堰景観形成」のプロジェクト立ち上げに向けた準備を進めています。

■福祉部会

部会としての方向性の共有化を図るためワークショップを行っています。安曇野の福祉の現状と課題を抽出し、安曇野ブランドとしての福祉を検討していきます。また、部会には「ぬかくど隊」を置き、昔ながらのご飯の炊き方による「ぬかくどご飯」を通じて、地域との交流や福祉についての意見交換などを行っていきます。